

青谷高生が古代米のもみまき



丁寧にもみまきする生徒ら

弥生時代に思い巡らせ

国史跡青谷上寺地遺跡 米のもみまきをした。本年（鳥取市青谷町青谷）を活用から新たに設定された科目「弥生文化探究」を選択した学びを進める青谷高（同）の生徒が13日、古代米の選りすぐる3年生15人が参加。弥

生時代に思いを巡らせながら、丁寧に作業した。

同校は地域と連携した「青谷学」を2017年度に開始。弥生文化探究は、遺跡についてより深く学ぼうと設定した。遺跡調査体験や弥生土器作りのほか、考古学分野を含め座学も充実させる。

この日は同遺跡史跡保存活用協議会の協力で実施。同会の森佳樹さんの指導の下、古代米の品種の一つ、黒米を苗床に計1・2キロ分まいた。実際に出土した炭化した米の観察などもあった。

林聖真さん（17）は「これから弥生の歴史を知っていくのが楽しみ」と話した。一部は校内のビニールハウスで苗に成長させ、6月上旬ごろ、近くの青谷小児童と一緒に遺跡内の田んぼに植える予定。

（渡辺暁子）